



2026年7月27日

各 位

会 社 名 ア ゼ ア ス 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 斉 藤 文 明
(コード番号：3161 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 取締役執行役員管理本部長 鈴木 一 裕
(TEL. 03-3865-1311)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(アップデート)

当社は、2023年5月から2026年4月までの中期経営計画「Next Stage 実行計画 2023」を終了し、2026年5月から新たな中期経営計画期間をスタートしておりますが、2024年7月10日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」に関しまして、その成果を評価し、新たな中期経営計画を踏まえて今後の取り組みをアップデートいたしましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご参照ください。

また、新たな中期経営計画「Next Stage 実行計画 2026」につきましては、本公表に合わせて2026年7月27日に開示をいたしましたので、合わせてご参照ください。

以 上

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

安全・防護システムで
人と環境を守る

アゼアス株式会社

2026年7月27日

2026年4月期アップデート

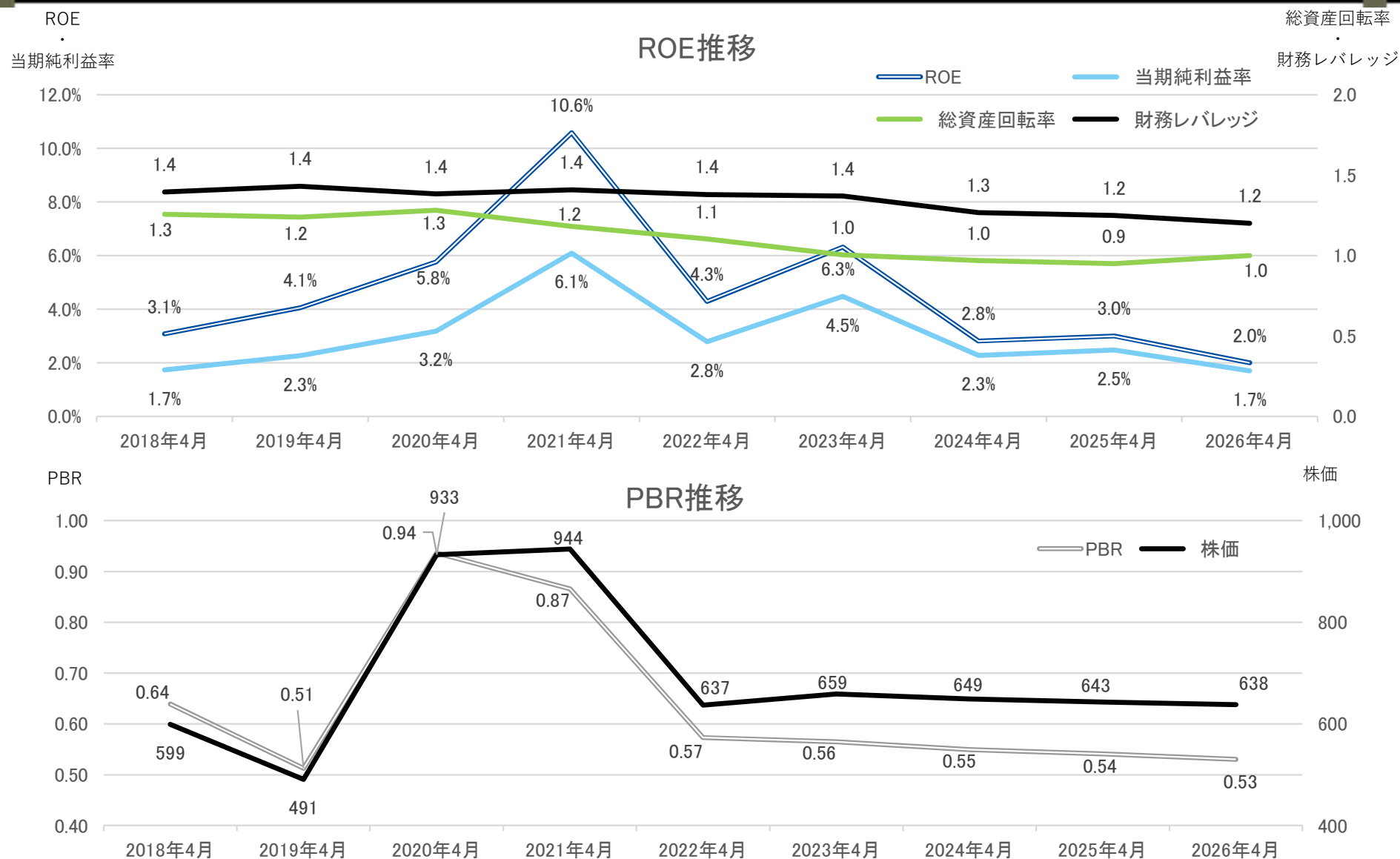
東証スタンダード市場
(証券コード:3161)

1. 現状分析

○ ROEとPBRの推移

	2018年4月	2019年4月	2020年4月	2021年4月	2022年4月	2023年4月	2024年4月	2025年4月	2026年4月
ROE	3.1%	4.1%	5.8%	10.6%	4.3%	6.3%	2.8%	3.0%	2.0%
当期純利益率	<u>1.7%</u>	<u>2.3%</u>	<u>3.2%</u>	<u>6.1%</u>	<u>2.8%</u>	<u>4.5%</u>	<u>2.3%</u>	<u>2.5%</u>	<u>1.7%</u>
総資産回転率	<u>1.3</u>	<u>1.2</u>	<u>1.3</u>	<u>1.2</u>	<u>1.1</u>	<u>1.0</u>	<u>1.0</u>	<u>0.9</u>	<u>1.0</u>
財務レバレッジ	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.2	1.2
売上高(百万円)	9,223	9,520	9,941	10,205	9,545	9,081	8,242	8,027	8,289
当期純利益(百万円)	160	215	316	621	266	406	187	199	138
純資産(百万円)	5,260	5,374	5,608	6,138	6,273	6,604	6,724	6,768	6,826
総資産(百万円)	7,339	7,689	7,758	8,644	8,651	9,048	8,512	8,452	8,458
PBR(倍)	0.64	0.51	0.94	0.87	0.57	0.56	0.55	0.54	0.53
株価(円、期末終値)	<u>599</u>	<u>491</u>	<u>933</u>	<u>944</u>	<u>637</u>	<u>659</u>	<u>649</u>	<u>643</u>	<u>638</u>
一株当たり純資産(円)	937.72	957.93	996.41	1,090.51	1,111.97	1,166.95	1,181.78	1,188.45	1,195.49

1. 現状分析



1. 現状分析

○ ROEに関する評価

$$\text{ROE} = \frac{\text{（当期純利益率）}}{\text{純利益}} \times \frac{\text{（総資産回転率）}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{（財務レバレッジ）}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{自己資本}}{\text{自己資本}}$$

<当期純利益率> ……具体的施策の実行を検討

- ・業績の変動はあるものの、長期的な傾向では改善基調があったが、コスト増の要因により低迷
- ・前中期経営計画の事業構造の転換等の施策実行により次につながる足がかりが整いつつあり、新たな中期経営計画により、さらに改善の可能性

<総資産回転率> ……具体的施策の実行を検討

- ・総じて低く、足元では低迷
- ・特に、売上高が伸び悩み、足元では感染症対策の需要の反動落ちで減収、売上拡大の施策は必須

<財務レバレッジ>

- ・概ね横ばい
- ・十分な株主還元を実施するとともに、業容拡大に向けた投資の検討を継続

■ 2026年4月期実績を踏まえた現状認識

- ✓ ROEの要素である総資産回転率、財務レバレッジは、ほぼ横ばいに推移しているが、当期純利益率は、やや悪化して推移
- ✓ 当期純利益率、および、増収による総資産回転率の改善により、ROEの押し上げを図る方針で、現時点では、まだ利益率や売上高が当初の想定通りには進捗していない。実績は重く受け止めているものの、2026年4月期は、アゼアデザインセンター秋田の生産効率向上と、増産体制の整備（メーカー機能の強化）、ベトナム現地法人の設立・営業の開始等、具体的な施策は着実に実行し、仕組み作りに注力の1年になったと認識。

1. 現状分析

○ PBRに関する評価

$$\text{PBR} = \text{株価} \div \text{1株当たり純資産}$$

<株価> …改善策の実行を検討

- ・ 長期的な傾向では上昇基調、ただし1株当たり純資産以上の株価上昇に追いつかない
- ・ 新型コロナウイルス感染症のまん延など、個人用防護具の需要が急増する事業環境では、株価が大きく変動する傾向
事業環境に左右されず安定した利益を計上できる収益構造への転換は必要

<1株当たり純資産>

- ・ 利益計上を継続し、増加基調

■ 2026年4月期実績を踏まえた現状認識

- ✓ 前期に引き続き、当社の業績推移を反映し、また、当社の事業を取り巻く外部環境にも大きな変動は見られなかったことから、株価は安定しつつも低位で推移
- ✓ メーカー機能強化の施策について、まだ当社の成長戦略が増収として成果に表れておらず、株価の向上にはつながっていない状況
- ✓ 2025年4月期実施の株価向上策のひとつである、従業員が経営に参画する意識を高めることを目的に、従業員持株会の活性化策を実施、少数減はあるものの高水準を維持し、企業価値向上意識
- ✓ 成果が株価には反映されていないものの、新製品情報、番組出演を通じた当社事業内容の紹介など、株主や個人投資家への認知度を高める地道な活動を継続中。

2. 今後の取組み

○ ROE改善に向けた取組み

**「Next Stage 実行計画2026」= メーカー機能強化のさらなる加速より
売上拡大に集中した施策の実行／売上拡大を通じ、成長シナリオ（成長戦略）による、
総資産回転率を高めることでPBRの改善につなげる**

中期経営計画「Next Stage 実行計画2026」 経営方針

- ①「人と環境を守る」事業を強化し、安全な社会実現へ貢献する
安全事業へ経営資源を集中、売上拡大と自律的な成長と事業投資での
収益構造改革を加速
- ②アゼアスブランド強化とDXによる顧客課題力の向上
培ってきた、信頼性高い製品と顧客の求める独自サービスや、
新たなIT/DX等手法を用い、メーカー機能のさらなる加速
信頼できる製品と実績により、企業イメージ強化と生産性向上で成長を加速
- ③魅力ある企業集団をつくり、ステークスホルダーから選ばれる企業となる
従業員エンゲージメント向上や人的投資での、企業活性化や生産性向上で、
成長を加速

2. 今後の取組み

中期経営計画「Next Stage 実行計画2026」

前回中期経営方針を継続

①「人と環境を守る」事業を強化し、 安全な社会実現へ貢献する

化学防護服分野

- ・化学物質規制強化(2024.4月)
- ・半導体等クリーン分野
- ・橋梁長寿命化対策(インフラ老朽化)

新規防護服分野

- 作業環境リスクの低減
- ・難燃、耐アークフラッシュ防護服
- ・高視認性防護服

労働災害や
健康被害の防止

新事業分野

新事業分野

ヘルスケア製品事業

- 医療機関やクリーン分野の安全
- ・不織布マスク(日本製、海外製)
- ・ガウン、手袋等個人用保護具
- ・感染対策製品

新事業分野

安全環境設備分野

- 安全な作業環境づくり
- ・負圧集じん装置(アスベスト、ダイオキシン)
- ・HEPAフィルター付き陰圧装置(感染対策)

安全事業の強化による売上拡大＝自律的な成長と事業投資による成長加速

2. 今後の取組み

○ PBR改善に向けた取組み

防護服・環境資機材事業を中心に、「環境や安全に係る問題」の発生や関心の高まりが経営成績に影響を与え株価が変動

ヘルスケア製品事業など新たな事業領域は進捗するが、利益貢献は途上中

⇒ 株価向上に向けた各種施策を実行するとともに、中期経営計画に示すとおり、事業環境に左右されず安定した利益を計上できる収益構造への転換を図る

中期経営計画「Next Stage 実行計画2026」(株価向上に向けた施策)

■ 中期経営計画の着実な実行による業績の向上

- ・ 収益力の強化／メーカー機能強化のほか、成長分野への経営資源の集中により、一層の収益構造改革を加速
- ・ DX活用やブランド強化等の等の施策実行による、売上拡大に重点を置いた成長／売上拡大を通じて成長シナリオを示す
- ・ 人的資本強化による、企業活性化と生産性向上

■ 説明会及びIR情報の充実

- ・ 成長シナリオを伝えるコミュニケーションと広報活動の強化
- ・ 非財務情報も含めたIR情報の充実を推進

■ 配当額の引き上げ

- ・ 構造改革を通じて収益力強化を図るとともに、更なる企業価値向上につながる事業投資、人材投資にも経営資源を配分しながら、株主還元(配当金)の水準を決定
- ・ 継続的かつ安定的な配当を重視しつつも、長期的には徐々に配当金の増額を進める方針

3. 目標とする経営指標

○ 中期経営目標指標

(単位:百万円)

	中期経営目標 (2029年4月期)	2026年4月期
売 上 高	9,500	8,289
経常利益 (経常利益率)	475 (5.0%)	214 (2.6%)
ROA(連結)	5.7%	2.5%
ROE(連結)	4.8%	2.0%

- ・前中期計画では、安全事業への投資とメーカー機能強化による成長戦略が業績回復に寄与しなかった点を、次期中期計画の重点課題と認識
- ・新中期計画では、前計画の課題に対する改善策を講じ、防護服・環境資機材事業の新分野（新規防護服、安全環境設備）とヘルスケア製品事業への一層の投資と、重点施策の1つであるサプライチェーンの多様化をベトナム子会社の拡充することで実現し、継続売上の成長とアゼアスブランド製品の強化による収益性向上を図る、新たな経営指標を設定